

結果の分析と課題

<国語>

第2学年の定着度調査結果

	はなしをききとる	かん字をよむ	かん字をかく	ことばのがくしゅう	ものがたりをよみとる	せつめい文をよみとる	てがみのへんじをかく	文しょうをかく
目標値	80.0	90.0	90.0	90.0	73.3	75.0	40.0	75.0
校内結果	88.0	98.6	96.9	95.2	71.8	82.1	37.4	77.5

第3学年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	言葉の学習	物語の読み取り	説明文読み取り	ちらしの内容を理解する	作文
目標値	81.7	87.5	71.3	73.3	65.0	63.3	50.0	73.3
校内結果	86.6	92.4	80.0	84.2	79.3	67.8	57.3	66.8

第4学年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	言葉の学習	物語の読み取り	説明文読み取り	インタビューをする	作文
目標値	73.3	86.3	66.3	58.8	73.3	70.0	45.0	61.3
校内結果	79.1	90.9	72.8	60.7	83.2	77.7	45.9	58.4

第5学年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	言葉の学習	物語の読み取り	説明文読み取り	ポスター作り	作文
目標値	76.7	86.3	72.5	61.3	73.8	68.3	47.5	61.3
校内結果	91.0	93.8	82.1	71.8	82.8	73.5	55.4	78.0

第6学年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	言葉の学習	物語の読み取り	説明文読み取り	報告書を書く	作文
目標値	80.0	86.3	68.8	60.0	71.3	56.7	50.0	61.3
校内結果	91.5	93.8	75.0	67.2	75.5	62.2	65.9	66.3

第7学年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	文法・語句の知識	説明文読み取り	文学作品読み取り	資料をもとに書く	作文
目標値	80.0	77.5	45.0	65.0	71.7	65.0	55.0	75.0
校内結果	85.9	85.0	49.2	68.9	83.1	73.0	59.5	83.2

第8学年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	文法・語句の知識	説明文読み取り	文学作品読み取り	資料をもとに書く	作文
目標値	68.8	83.8	57.5	70.0	51.7	47.5	58.3	66.0
校内結果	73.5	93.0	66.7	73.5	55.4	52.9	70.6	74.3

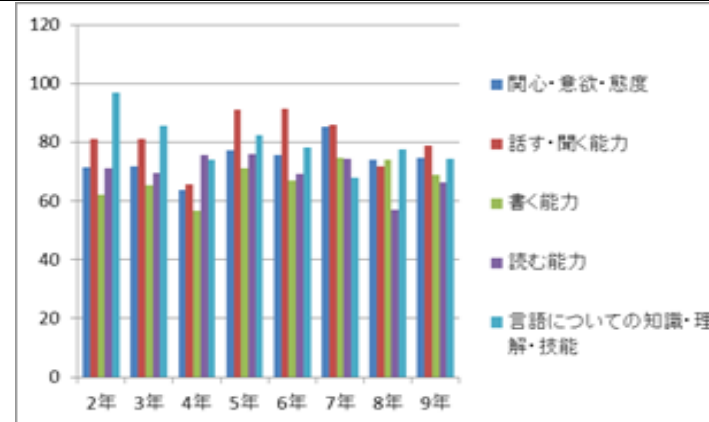
第9学年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	文法・語句の知識	説明文読み取り	文学作品読み取り	資料をもとに書く	作文
目標値	71.3	75.0	71.3	58.8	56.3	63.8	55.0	66.0
校内結果	78.9	83.3	77.9	63.2	63.2	69.2	65.7	73.5

*目標値とは、学習指導要領に示された内容について学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合です。

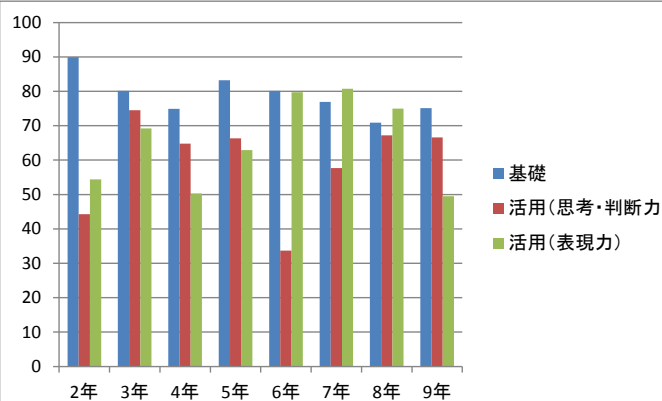
結果概要

どの学年も全国の平均正答率を上回りました。第4～8学年は、区の平均正答率も上回っています。しかし、学年によって、学力の定着度に大きな差が見られます。平成30年度の課題であった「話すこと・聞くこと」に対し、全学年において授業の導入で傾聴力を意識した場面を設定した授業づくりを行ってきました。また、義務教育学校の特色を生かし、9年間を見通して、発達段階に合わせた発表の場を重視した表現力の指導に力を入れてきました。さらに、国語科の授業や豊葉の杜タイムを活用して、習熟度の定着を図ったことで、どの学年も目標値・全国平均値を上回る結果になりました。



各学年の観点別正答率です。全学年でも目標値及び全国の平均正答率を上回っています。区の平均正答率を下回った観点は、「国語への関心・意欲・態度」(第2～4学年)、「話す・聞く能力」(第2～4、7学年)、「書く能力」(第2～4年)、「読む能力」(第2～4、6学年)です。本校では、引き続き「話す・聞く能力」が課題であることが分かります。

右は学年ごとの基礎・活用の観点から見た正答率です。前期課程は全学年において目標値及び国の平均正答率を上回りました。後期課程は、全学年において目標値、国、区の平均正答率全て上回りました。区の平均正答率を下回ったのは、第3学年「基礎」、第2～5学年の「活用」です。本校では、身に付けた知識や技能を活用し、自分の考えを表現するなど、活用にも力を入れていきます。



課題の原因と身に付けさせたい力

国語の学習を通して、前期課程では、獲得した語彙を使って話したり、書いたりすることが適切にできる力や、相手に物事を伝える力が必要と考えられます。さらに、後期課程では、聞き手に向けた話し方の工夫について理解することが求められます。

課題解決のための具体的な方策

義務教育学校のよさを生かし、国語科として以下の力を身に付けさせたいと考えます。

《前期課程》

- ①国語科の学習において、興味・関心をもって取り組む力。
- ②日常生活に必要な言葉を読んで理解する力。
- ③獲得した語彙を使って話したり、書いたりすることが適切にできる力。
- ④話す活動や書く活動において、相手に物事を伝える力。
- ⑤思考力を働かせながら文章を読み、そこから自分の考えをもつ力。

《後期課程》

- ①聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る力。
- ②品詞を理解し、単語に分ける力。
- ③文章の構成や展開、表現の仕方を捉える力。

話すこと聞くことの力を伸ばすために、具体的な目標を示しながら授業を展開したりICT機器を活用したりしていきます。相手意識をもたせて活動するとともにスピーチなどを行うことで、話し手の工夫を実践する場を設けます。他教科との連携した活動を意識的に取り入れます。書くことの力を伸ばすために発達段階に応じ、第1、2学年では経験したこと、第3、4学年では事例と理由、第5、6学年ではある意見に対する自分の考えを伝える活動などを積極的に行っていきます。豊葉の杜タイムを中心に基礎基本の学力の向上を図るとともに、漢字コンテストを実施し、学力の定着を図ります。

成果指標

- ・全学年「話す・聞く力」について区の平均正答率を上回る。
- ・全学年「書く能力」について区の平均正答率を上回る。
- ・全学年「基礎的な力」について区の平均正答率を上回る。

<社 会>

第4学年の定着度調査結果

	学校のまわりの様子	市の様子	買い物調べ	店ではたらく人	工場の仕事
目標値	68.8	67.5	63.8	64.0	62.5
校内結果	74.2	70.7	70.9	73.2	78.6

第5学年の定着度調査結果

	安全な暮らし-事故	くらしを支える水	ごみの処理と利用	地域の発展に尽くした人々	地図の見方	県の様子
目標値	63.8	55.0	61.3	43.3	51.7	54.0
校内結果	74.5	66.9	76.6	46.4	64.0	66.7

第6学年の定着度調査結果

	国土	人々の暮らし	農業と水産業	食料生産	自動車	工業生産と地域	貿易	情報	環境
目標値	70.0	55.0	72.5	60.0	65.0	70.0	55.0	65.0	63.3
校内結果	68.4	74.0	75.8	62.2	68.2	77.1	66.7	70.5	68.4

第7学年の定着度調査結果

	縄文~平安	鎌倉~室町	安土桃山~江戸	明治~昭和	日本の政治	日本国憲法	世界の中の日本
目標値	60.0	65.0	55.0	66.4	55.0	70.0	72.5
校内結果	58.5	66.3	57.0	73.9	57.8	75.8	82.0

第8学年の定着度調査結果

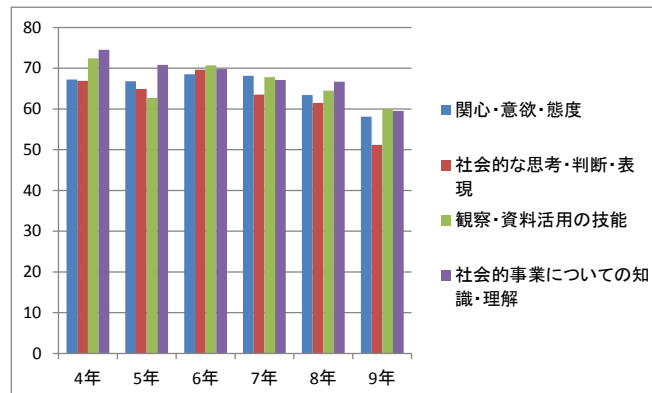
	地球のすがた	世界の人々の生活環境	世界の諸地域	古墳時代	飛鳥~平安時代	中世の日本
目標値	56.7	66.3	63.6	72.0	60.0	55.0
内結果	53.3	69.4	65.7	75.6	66.3	53.3

第9学年の定着度調査結果

	日本地域構成	日本地域的特色	日本諸地域	身近な地域	全国統一	江戸時代	明治時代
目標値	56.7	58.3	60.0	50.0	57.5	51.7	55.0
校内結果	57.2	56.2	68.9	57.8	50.9	52.0	54.8

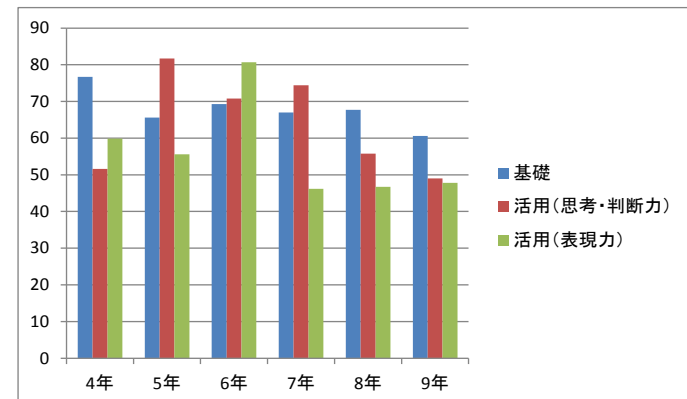
結果概要

平成30年度の課題の1つであった「知識・理解」の定着は、前期課程では全て目標値、区、全国の平均正答率を上回りました。後期課程では、第8学年が目標値と区の平均正答率を上回ったものの、全国の平均正答率を下回りました。第7学年および第9学年は目標値、区、全国の平均正答率を全て上回っています。しかし、昨年度の目標である区の平均正答率を3%上回ったのは、第5学年と第8学年でした。また、もう1つの課題の「基礎」の定着は、前期課程は全ての学年が目標値、区および全国の平均正答率を上回りました。後期課程では、第8学年は目標値と全国の平均正答率を、第7学年および第9学年は目標値、区、全国の平均正答率を上回りました。昨年度の目標であった区の平均正答率を5%上回ったのは、第5学年のみとなりました。今年度も、全学年で区の平均正答率を上回ることが課題です。



各学年の観点別正答率です。全学年が目標値を全ての観点で上回りました。第5~9学年は区の平均正答率も全ての観点で上回っています。また、第4~7学年と第9学年は全国の平均正答率を上回りました。「社会的事業についての知識・理解」が全国を下回った学年や、「社会的な思考・判断・表現」及び「社会的現象への関心・意欲・態度」が区を下回った学年があり、今後の課題です。

右は学年ごとの基礎・活用の観点から見た正答率です。第5~7、9学年は「基礎」「活用」の両方の観点で目標値、区の平均正答率、全国の平均正答率を上回りました。第4学年は「基礎」は目標値、区、全国の平均正答率を全て上回ったものの、「活用」の観点では、区の平均正答率を下回りました。また、第8学年は「基礎」の観点で全国の平均正答率を下回ったものの、「活用」の観点では、全て上回ることができました。



課題の原因と身に付けさせたい力

全学年を通して、思考・判断・表現する力に課題が見られました。地図や資料の読み取り方が十分身に付いていないことや、知識が定着し切れていないことが課題であると考えられます。社会科として身に付けさせたい力は、社会的現象を的確に考察し、調べた過程や結果を文章で表現したり地図や資料を活用して、必要な情報を的確に読み取ったりする力です。さらに、問題を解決するために、必要な知識や事実を求める力を身に付け、学んだことを生かしてどのように社会に貢献していくかなど、学習内容を自己の課題として捉えることができる力です。自分自身の考えをもち、友達と交流することで、考えを深め合い、思考力・判断力・表現力を高めていきたいと思います。

課題解決のための具体的な方策

基礎基本の内容を繰り返し確認して、知識の定着を図ります。さらに、前期課程においては「つかむ」「調べる」「まとめる」を基本とした問題解決的な学習に取り組みます。特に第4学年では、学習した内容を生活の中でどのように生かすことができるかを考えさせ、自己の課題として捉えられるように指導します。第5学年では立場の違いを意識しながら資料を読み取り、考えさせる場面を設定することで思考力を養います。第6学年では年表や資料を活用し、社会的現象の特色を理解するようにします。第7学年では、毎時間小テストを実施し、基礎基本の知識の定着を図るとともに、課題に対して解決方法を自身で考え、グループで考えたことや調べたことを共有するようにします。第8学年でも小テストを実施し、基礎基本の知識の定着を図り、さらに、ポートフォリオ化するなど、表現の方法を増やして行きます。第9学年では、学習した内容を適宜発表し合い、学級で学びを深める活動を多く取り入れ、思考力・判断力・表現力を高めて行きます。

成果指標

全学年の「知識・理解」について目標値および区の平均正答率を上回る。
全学年の「基礎的な力」について目標値および区の平均正答率を上回る。

<算 数・数 学>

第2学年の定着度調査結果

	120までのかず	たしざん	ひきざん	3つのかずのけいざん	とけい	ながさ・かさ	かたち
目標値	88.1	83.3	75.5	90.0	85.0	82.5	68.8
校内結果	92.0	91.3	79.7	86.6	86.6	91.2	70.9

第3学年の定着度調査結果

	計算	10000までの数	たし算・ひき算	かけ算	時こくと時間	長さ・かさ	三角形と四角形	はこの形
目標値	90.0	69.0	78.1	80.0	58.8	68.8	83.3	50.0
校内結果	97.3	77.6	76.8	87.0	65.5	74.7	93.5	50.4

第4学年の定着度調査結果

	計算	大きい数	たし算・ひき算	かけ算	わり算	時こくと時間	長さ・重さ	円と球、三角形	□を使った式	ぼうグラフと表
目標値	90.0	75.6	80.0	58.8	77.0	78.3	72.5	76.7	65.0	47.5
校内結果	98.9	81.3	90.7	67.3	81.1	81.7	74.2	80.6	72.5	45.1

第5学年の定着度調査結果

	計算	億と兆・概数	わり算	小数	分数	角の大きさ	面積	いろいろな形	計算のきまり・変わり方調べ	折れ線グラフと表
目標値	82.5	70.0	66.3	69.0	77.5	70.0	65.0	56.3	60.0	42.5
校内結果	84.9	81.5	67.7	78.7	79.6	79.0	71.2	62.8	64.8	48.4

第6学年の定着度調査結果

	計算の復習	整数の仲間分け	分数と小数	小数の計算	分数の計算	単位のたりの大きさ	面積と体積	図形の角・円周	合同・立体	百分率とグラフ
目標値	80.0	62.5	65.0	56.9	76.3	70.0	70.0	63.3	82.5	41.0
校内結果	80.7	67.4	69.8	61.8	78.6	71.9	79.7	73.6	87.0	40.5

第7学年の定着度調査結果

	小数・分数の計算	整数の性質	面積と体積	平均	平面図形	百分率	場合の数	比と比例・反比例	文字と式	グラフの読み取り
目標値	77.5	70.0	77.5	61.7	67.1	65.0	70.0	67.5	77.5	65.0
校内結果	78.1	74.2	78.8	67.9	74.9	76.9	77.3	73.5	81.8	70.7

第8学年の定着度調査結果

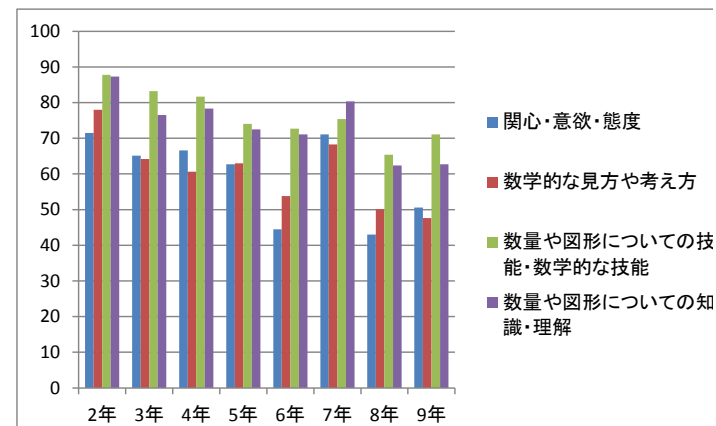
	計算の復習	正負の数	文字式	1次方程式	比例・反比例	平面図形	空間図形	資料の散らばりと代表値
目標値	70.0	83.3	67.5	52.0	39.4	43.3	66.3	43.3
校内結果	78.8	91.5	72.7	62.5	49.8	50.6	73.1	50.3

第9学年の定着度調査結果

	計算の復習	式の計算	連立方程式	1次関数	図形の性質	証明	確率
目標値	72.5	62.0	56.0	49.5	60.0	35.0	67.0
校内結果	88.2	72.5	62.7	58.3	68.6	35.6	77.8

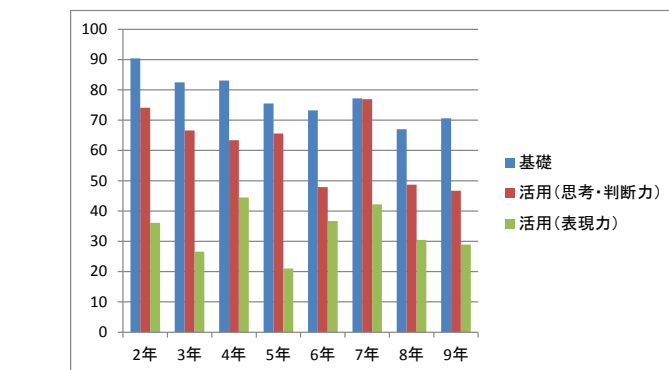
結果概要

平成30年度の課題であった「基礎的な力」は、全ての学年で目標値を上回りました。しかし、区の平均正答率を上回ったのは、第7学年、第8学年、第9学年と後期課程のみです。前期課程は下回るか同等の値でした。どの学年も授業の初めや宿題などで、基礎的・基本的な学習を反復して行い、学力の向上および定着を図ることが今年度の課題です。



各学年の観点別正答率です。どの観点も目標値を上回っています。区の平均正答率を下回った観点は「算数・数学への関心・意欲・態度」(第2、4、6学年)、「数学的な見方・考え方」(第2、3、4、6学年)「数量や図形についての技能・数学的な技能」(第2、4、6学年)「数量や図形についての知識・理解」(第2、4、6学年)です。本校では、「数学的な見方・考え方」の力の向上が課題であることが分かります。

右は学年ごとの基礎・活用の観点から見た正答率です。全ての学年で「基礎」は目標値及び全国の平均正答率を上回っています。区の平均正答率を下回ったのは「基礎」(第2、4、6学年)「活用」(第2、3、4、6学年)でした。今年度も「基礎」の定着に課題が見られます。



課題の原因と身に付けさせたい力

今年度も基本的・基礎的な知識及び技能の習得に課題が見られます。授業で学習したことを繰り返し行い、確実に定着させることが必要です。そのために、前期課程では、習熟度別少人数指導を展開しています。児童の理解度に合わせた授業を展開しています。さらに、宿題で反復学習をし、学力の向上を図っています。具体物を用いた算数的活動を多く取り入れたり、友達との学び合いの時間を確保したりして、思考力の素地を養う授業を意図的に行っていきます。後期課程では、数の概念を深めるとともに、資料を整理し読み取る力や論理的に考察して、表現する力を身に付ける学習を意図的に取り入れていきます。

解決のための具体的な方策

義務教育学校のよさを生かし、第1学年から第9学年まで学習を積み重ねていくスパイラル学習を行います。

<基礎的・基本的な知識・技能>

第1学年…整数の加法、減法
第2学年…乗法
第3学年…除法
第4学年…四則演算を理解し、正しく計算すること
第5学年…小数、分数の加法減法、割合、速さ
第6学年…小数、分数の乗法除法、
第7学年…正の数・負の数、文字を用いた式
第8学年…連立方程式
第9学年…平方根、数量関係

<図形領域>

第1学年…積木など具体物を十分操作し、数学的活動を行うこと
第2学年…三角形や四角形、箱の概念を理解すること
第3学年…円や球の概念、身の回りから具体物を探すこと
第4学年…垂直や平行、身の回りの具体物の関係
第5学年…多角形や合同、日常生活で活用する力
第6学年…対称、拡大や縮小、一つ一つの図形の特徴を捉えること
第7学年…図形の移動や作図から図形の概念を見出すこと
第8学年…合同な三角形から、新たな図形の性質を見出すこと
第9学年…相似な三角形から新たな図形の性質を見出すこと

前期課程では、基礎基本の四則演算を繰り返し行い、正しく計算できる力を身に付けさせます。さらに、数量関係では、数値が表す意味を正しく読み取る指導を行います。問題文を具体的にイメージし、数値が何を表しているのか、どう変化しているのかを具体物や図を活用して考える活動を取り入れていきます。後期課程では、正確に計算できるだけでなく、数学用語を用いて正しく説明する力や、見通しをもって問題解決し、考察する力を育てていきます。

成果指標

全学年の「基礎的な力」について区の平均正答率を+3パーセント上回る。

<理 科>

第4学年の定着度調査結果

	身近な自然観察	植物の育ち方	こん虫の育ち方	こん虫のからだのつくり	太陽と地面の様子	光の性質	風やゴムのはたらき	電気の通り道	じしゃくのせいしつ	物の重さ
目標値	78.3	55.0	66.7	85.0	59.0	70.0	60.0	46.3	60.0	62.5
校内結果	81.0	50.2	62.6	79.7	63.1	73.6	60.4	41.8	60.4	67.0

第5学年の定着度調査結果

	植物の成長	動物の様子	天気の様子と気温	電気のはたらき	動物のからだのつくりと運動	月と星	物の体積と力	物の体積と温度	水のすがた	自然の中の水	物のあたまのつくり
目標値	82.5	77.5	80.0	55.0	75.0	66.0	72.5	76.7	57.5	61.7	53.3
校内結果	84.9	82.8	73.7	44.4	70.4	67.4	74.7	87.1	61.3	64.5	60.0

第6学年の定着度調査結果

	天気の変化	植物の発芽と成長	魚の誕生	花のつくりと実	流れる水の働き	人の誕生	ふりこのきまり	物のとけ方	電流の働き	顕微鏡の使い方
目標値	72.5	56.3	76.7	73.3	80.0	72.5	45.0	55.0	43.3	35.0
校内結果	74.0	65.0	81.3	80.6	89.6	82.8	44.3	64.9	53.3	33.0

第7学年の定着度調査結果

	物の燃え方	動物のからだのつくりとはたらき	植物のつくりとはたらき	生物とかんきょう	月と太陽	大地のつくりと変化	てこのはたらき	水溶液の性質	電気の利用
目標値	58.3	60.8	67.0	66.7	55.0	56.7	55.0	58.3	61.7
校内結果	58.6	68.6	70.9	76.3	51.8	61.1	61.4	62.9	71.7

第8学年の定着度調査結果

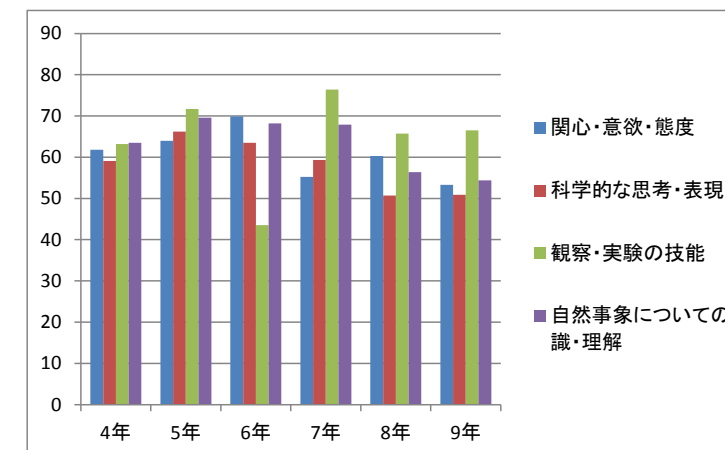
	植物のからだのつくりとはたらき	植物の分類	身のまわりの性質とその性質	気体の性質	水溶液の性質	物質の状態変化	光の性質	音の性質	力と圧力	火山	地層
目標値	56.3	58.3	67.5	63.3	65.0	60.0	57.5	56.7	51.0	53.3	51.7
校内結果	56.3	43.1	71.7	60.8	69.7	56.3	53.8	55.3	53.3	51.4	51.4

第9学年の定着度調査結果

	物質の成り立ち	化学変化	化学変化と物質の質量	生物と細胞	動物のからだのつくりとはたらき	動物の分類と生物の進化	電流の性質	電流と磁界	電流の正体	前線の通過と天気の変化	大気中の水蒸気の変化	日本の気象
目標値	58.3	68.3	45.0	52.5	57.0	61.7	40.0	43.3	65.0	63.3	55.0	53.3
校内結果	46.1	68.3	43.6	55.4	53.1	67.0	37.6	38.2	66.2	65.0	45.6	58.5

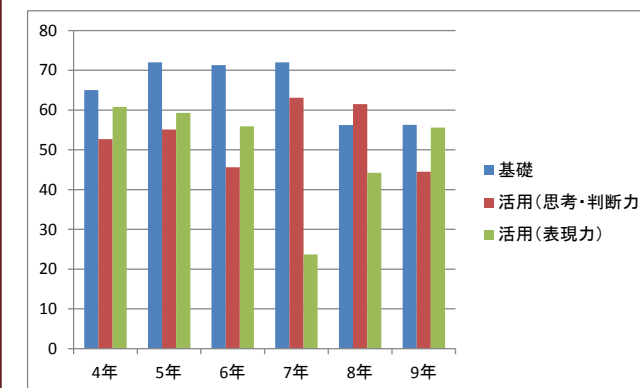
結果概要

平成30年度の課題であった、「自然事象への関心・意欲・態度」については、第5、6、7学年が目標値を上回り、第8学年が目標値と同等という結果になりました。また、「科学的な思考・表現」について区の平均正答率を上回ったのは、第5、7、8学年で、第9学年は同等の結果となりました。



各学年の観点別正答率は、合計24観点中16観点が区の平均正答率を上回り、1観点が同等の値でした。区の平均正答率を下回ったのは、第4学年「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」、第5学年「自然事象への関心・意欲・態度」「観察・実験の技能」、第6学年「科学的な思考・表現」です。

右は学年ごとの基礎・活用の観点から見た正答率です。第4学年は「活用」の目標値と全国の平均正答率を上回りました。第5学年は「基礎」の全国の平均正答率以外全て上回り、第6学年は「活用」の区の平均正答率以外全て上回りました。第7学年は「基礎」「活用」とともに、目標値、区及び全国の平均正答率を上回りました。第8学年は「基礎」の観点では区の平均正答率を、「活用」では目標値を上回りました。第9学年は「活用」で区と全国の平均正答率を上回っています。



課題の原因と身に付けさせたい力

本校の課題は「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」の2領域の平均正答率を上げることです。この観点の平均正答率が低かった原因には次のようなものが考えられます。

「観察・実験の技能」が低かった原因

- ・問題解決のための観察や実験場面において、児童生徒に明確な目的意識をもたせきれていないこと。
- ・実験や観察場面において、実験器具等を繰り返し操作する機会を十分に設定できていないこと。

「自然事象についての知識・理解」が低かった原因

- ・自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図る活動が十分行えていなかったこと。
- ・科学的な言葉や概念を正しく理解し、繰り返し活用して定着させきれなかったこと。

そこで、今年度は、科学的な概念や知識を確実に定着させるとともに、観察や実験を安全に正しく行うことができる技能を身に付けさせていきたいと考えます。

課題解決のための具体的な方策

問題を解決するために観察や実験を行うという目的意識を、児童生徒に明確にもたせる指導を行います。授業において、実験器具等を繰り返し操作する機会を意図的に設け、児童生徒が、安全で正しく活用できる「観察実験の技能」が身に付く授業を展開します。また、科学的な言葉を繰り返し用いる場面を設けることで、確かな知識を定着させるとともに、生活の中で学んだ知識を活用したり、規則性などを適用させたりする指導の充実を図ります。

成果指標

全学年の「観察・実験の技能」について、調査の目標値を上回る。

全学年の「自然事象についての知識・理解」について、調査の目標値を上回る。

<英 語>

第8学年の定着度調査結果

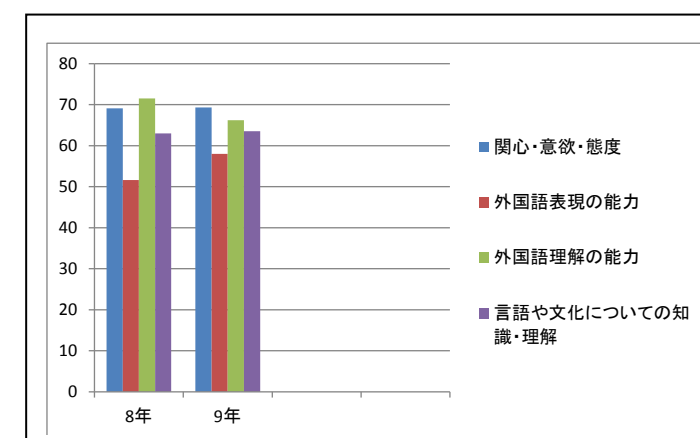
	リスニング (内容理解)	リスニング (対話文応答)	語形・語法 知識理解	語彙の 知識理解	さまざまな 英文読み取り	長文の 読み取り	単語並べか え英作文	場面に応じ た英作文	3文以上 英作文
目標値	80.8	56.3	70.0	56.3	57.5	58.8	52.5	35.0	51.7
校内結果	87.4	63.9	68.1	60.1	64.6	62.4	60.6	35.4	62.2

第9学年の定着度調査結果

	リスニング (内容理解)	リスニング (対話文応答)	語形・語法 知識理解	語彙の 知識理解	さまざまな 英文読み取り	長文の 読み取り	単語並べか え英作文	場面に応じ た英作文	3文以上 英作文
目標値	75.0	61.3	56.3	53.8	57.5	57.0	58.8	30.0	63.3
校内結果	80.1	64.2	59.8	63.2	52.9	61.8	67.4	25.7	77.6

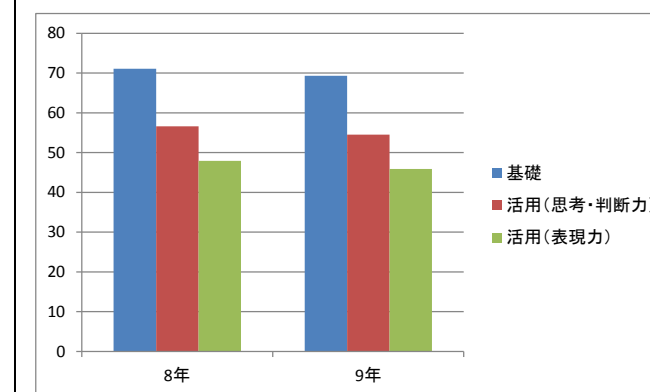
結果概要

平成30年度の課題であった、「書くこと」は、大きく改善され、第8学年は全ての領域で目標値、区、全国の平均正答率を上回りました。第9学年は、全ての領域で、目標値、国の平均正答率を上回ることができました。区の平均正答率については、「書くこと」について下回りました。



各学年の観点別正答率です。第8学年、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解への能力」「言語や文化についての知識・理解」の全国、区、目標値ともに全て上回りました。第9学年については、全ての観点で、全国、区、目標値を上回りましたが、「外国語表現の能力」の観点のみ区の平均正答率を下回りました。

右は学年ごとの「基礎」「活用」の観点から見た正答率です。第8学年、第9学年ともに「基礎」「活用」の両方の観点において、目標値を上回っています。今後も「基礎」の定着を図ると同時に、「活用」の力を養い、高めていく必要があります。この活用とは、上のグラフの「外国語表現の能力」と重なる部分です。第8学年、第9学年ともに、自分で英文を組み立てる力の育成が必要です。



課題の原因と身に付けさせたい力

得た知識を実際に活用につなげる力に課題が見られます。具体的な活用場面を生徒に意識させながら、知識を活用に結び

ける機会が不足していたことが原因の一つとして考えられます。今後は、場面に応じて、得た知識を適切に選択し、活用する力や、即興性を意識し活用できる力を付けていきます。

また、語彙力や語形などの知識・理解の定着についても課題がみられます。文脈を意識しながら、語彙の意味を理解し、語形変化を理解するのではなく、語彙そのものを単独で学習する機会が多くなってしまったことが原因の1つであると考えられます。文脈の中や具体的な活用場面の中で、適切に語を変化させ、語彙を活用できる力を付けていきます。

課題解決のための具体的な方策

定期テストのほかに、スペリングコンテスト、リーディングテスト、即興性の高いパフォーマンステストを行い、総合的な力を身に付ける機会を定期的に設けます。学んだ知識を活用できるようにするために、具体的な場面を効果的に設定し、知識と活用を関連付けた指導を進めていきます。語彙力の向上についても、繰り返し練習するパターンプラクティスと覚えた語彙を適切に選択・活用することを意識できるように、自分の考えに基づいて活用する時間を授業の中で意図的に設けていきます。

成果指標

4技能の力をバランス良く伸ばし、目標値をすべて上回り、かつ全ての観点において、品川区の平均正答率を上回るようにする。